

三次市日中友好協会
第9次子ども友好訪中団

9th

交流報告書

2018年9月
三次市日中友好協会

はじめに

三次市日中友好協会は、中華人民共和国との交流団体として、子ども交流や友好奨学金の充実など教育交流を柱に友好団体の四川省雅安市雨城区人民対外友好協会との市民交流に力をそそぎ、三次市行政との連携を密にしながら「市民草の根交流」を取り組んできました。

この度、「日中平和友好条約締結40周年」という節目に、三次市、三次市教育委員会、一般財団法人三次国際交流協会の協力を得て、第9次子ども友好訪中団を実施いたしました。事業実施にあたっては、関係各位からのご指導、ご鞭撻を賜り、あらためて感謝を申し上げます。

「今こそ民間交流の出番」を合言葉に、子どもの教育交流を原点とし、小さくとも息の長い活動を推し進め、尚一層の日中友好交流に努力していきます。

三次市日中友好協会 会長 大谷 清

本事業は、(一財)三次国際交流協会の助成を受けたものです。

■第9次子ども友好訪中団に参加して

八次駐中学校 3年 半角 優奈

私は、この度日中友好訪問団に参加することで大変貴重な体験をすることができました。

まず、一日目はとても長い距離を移動しました。移動は飛行機が中心でした。私は、飛行機に乗るのが初めてなので期待と不安がありました。楽しかったです。私は、フライトアテンダントを目指しているので近くで仕事をたくさん見ることが出来とてもよかったです。

二日目は、雅安市の市役所に行きました。私は、今回の訪中団の団員長をしていたので市の方々にスピーチをしました。とても緊張しましたが、もう二度とない機会なので特別なものになりました。その後は、ホームステイの家族と対面しました。対面した後、チベット茶の歴史を見学し、作法を学びました。ホームステイは、この訪問の中で一番心配していたことなので、どうなるか不安でしたが、家族とは英語で会話することができたりショッピングモールに連れて行ってもらったりして中国の人たちの暮らしを知ることができました。

三日目はホームステイ先の家族とパンダ動物園に行きました。パンダは日本でも見たことがありましたが比べ物にならない数のパンダがいました。すごく近くで見ることができて、とても楽しかったです。その後はホームステイの家族とは別れて、上海に向かいました。その日泊まったホテルは空港の中にあるため、すごくたくさんの飛行機を間近で見ることができワクワクしました。

四日目は、上海ディズニーランドに行きました。初めてのディズニーでとても楽しみにしていたので、パークに一日中いることができ、とても楽しかったです。

五日目は、豫園という街に行きました。豫園は、お土産を買うところがたくさんあったり、昔ながらの建物があつたりしました。その後、上海で2番目に高いビルに上がりました。再高層階には床が透明な部分があり楽しかったです。そのビルの近くでは、欧米風の昔に建てられた建造物がありました。それはイギリスの植民地時代に建てられたものだそうです。上海の街には昔のことを知ることができる建物などがありました。

今回の訪問では、普通の旅行では体験することができないたくさんのことを見たり体験したりしました。自分が目指したい人たちの仕事を近くで見ることができました。この訪問でさらにいろいろな国に行きたいと思いました。今回訪問して学んだことを、自分の将来に役立てていきたいと思います。

■三次市日中友好協会子ども訪中団に参加して
作木中学校 1年 桑名 咲良

私は、子ども訪中団に参加して、5日間
の間に、少し成長ができたように感じた。

この訪中団の話は、最初は乗り気ではな
かった。学校で配られた紙を見て、両親は、
「咲良が行きたいなら、行かせてあげるよ。」
と言ってくれたけれど、私は結局行かない
ような気がしていた。その理由は、中国の
イメージが悪かったり、知らない人たちと
行くことに不安があったりしたからだ。で
も、姉がアメリカにホームステイに行った
こともあり、外国へ行ってみたいと思っ
ていたので、興味は持っていた。そこで、説
明会に行ってみて決めることにした。

説明会に行くうちに、「行こうかな？」
と思い始めて、中国に行く気になっていっ
た。研修会の中で、中国語の勉強をした。
龔先生が分かりやすく、簡単な言葉を教え
てくれたので、覚えたいなと思いながら、
練習をした。

中国では、一番先に「雅安市雨城区」と
いう都市を観光した。この町は、三次市
と友好都市関係を結んでいる。主に、2日
目、3日目にこの地域にお世話になった。
まず表敬訪問をした。会議室はとても立派
で、会が始まると、緊張した。雅安市雨城
区についてや雨城区と三次市の交流につ
いて学んだ。これからも仲良くしていけれ
ばいいなと感じた。英語学校に行き、レク
レーションをした。明るい子ばかりで、さ
らに英語がペラペラだった。ホームステ
イを受けてくれる子たちも英語が得意な
子が多かった。私の泊まる家の子、李茂も
最初は英語で話しかけてくれた。しかし、

英語が苦手な私は、うまく答えられず、
会話は続かずに終わってしまい、申し訳
なかった。外国に行ってみて、英語の必
要性を強く感じた。李茂のスマートフォ
ンの翻訳アプリで会話ができるように
なって、李茂も安心したようだった。英
語の勉強をもっとがんばって機械に頼
らなくても外国人と話ができるように
なりたい。

ホームステイは、とても楽しかった。夕
食は祖母の作っていく料理のような感
じでおいしかった。中国の人はテーブル
に骨や食べかすを置くのだなと思った。
夜は李茂と二人で街を散歩した。日本
の反対の左側通行だと聞いて心配して
いたのだけれど、李茂がリードしてく
れて助かった。中国の夜景は映画の中
のようで美しかった。

四日目は、上海という都市に行った。
上海という街は、見える建物、全部大
きくて、そして人が多くて、少し先の
未来を想像させた。雅安市はどちらか
というと伝統的なイメージを持った。
でも雅安の3つの「雅」の1つ、「雅
女」のとおり、雅安市と比べるとほ
かの都市は、美人が少ないと感じた。

5日間は、あっという間に終わり、私
は作木町に帰ってきた。とても楽しく
て、勉強になった。いい経験をさせ
てもらった。

私は中国に行っただけで本当によか
ったと感じている。だから、行くチャン
スを与えてくれて、そして行かせてく
れた父と母には、とても感謝している。

■子ども友好訪中団

みらさか小学校 6年 立河 桜愛

初日は、6時に集合し、母と別れバスに乗りました。いつもより早く起きたのですぐにねてしまいました。飛行機で上海に行き、乗りかえで成都に行く前、なかなか進まないと思っていたら飛行機が列をつくっていてすごかったです。雅安は、高い建物が多く、パンダの像がたくさんありました。

二日目は、雅安の人たちと交流しました。英語教室では、名刺をこうかんしたりダンスを発表したりして、とても楽しかったです。ホームステイ先の子とお茶の博物館やパンダの絵を描いたときは、その子もとても楽しそうでよかったです。スマートフォンを持っていて、そのアプリのほん訳機で話しました。ホームステイでは彩乃ちゃんと泊まりました。お母さんなどがとても親切にしてくれてうれしかったです。名探偵コナンの映画を見せてもらったときは、日本がなつかしいと感じました。

三日目は、ホームステイ先の子とパンダ保護センターに行きました。本物のパンダは思っていたよりも大きかったです。子どものパンダは遠くからしか見られなかったけど、かわいいなと思いました。おみやげはキーホルダーが安くてたくさん買えたので、満足でした。上海に行く飛行機にはトイストーリーの絵が大きく描いてあり、映画などを見れる画面もついていて、おもしろかったです。

四日目は、楽しみにしていた上海ディズニーランドに行きました。最初に乗ったロアリング・ラピッドは2時間程ならび、やっと乗れました。水にぬれて、少しずつしく

なりました。午後からのカリブの海ぞくは、人形がリアルで少しこわかったです。他にもアリスの迷路やシンデレラ城など、いろいろなところに行きました。パレードが三回程ありましたが、どれも同じパレードだったので、一回だけ見ました。帰りに気付きましたが、雅安よりも低くて広い建物が多かったです。

最終日は、豫園や上海のタワーに行きました。上海を上から見るととてもきれいでした。豫園では、自分のはんこを作ってもらいました。他のお店にもいろいろなお土産がありましたが、何も買えませんでした。空港では、パンダクッキー、アイマスクを買いましたが。残り三百円あったのでとりあえずバックを買いました。日本円でいくらなのか気になったので、計算すると三千円でした。日本だと思いついて買えないなと思いました。帰りの飛行機では、家に帰りたい気持ちが半分、もう少し中国にいたい気持ちが半分で、少し複雑でした。

今回子ども友好訪中団に参加し中国に行ったことは、この夏最高に楽しく、忘れられない思い出になりました。雅安と上海のちがいが分かってよかったです。最初は中国でうまくやっていけるか、みんなと仲良くなれるか不安でした。けれど、いろいろな人と出会えてとても楽しい思い出になりました。二年後にはまた友達もさそって参加したいです。また、ほかの都市も行ってみたいなと思いました。

■三次市日中友好協会に参加して

八次小学校 6年 中嶋 千晴

わたしは、第9次子ども友好訪中団として中国に行きました。第一に思ったことは暑いということです。やっぱり中国も日本と同じで暑いんだなと思いました。

まず一日目です。三次から空港へ行き、そこから中国にはばたいていきます。空港に着くと飛行機がならんでいます。とても楽しみです。飛行機の中はとてごらくであつという間に着きました。次の空港は上海空港です。少しの間上海を楽しみ、次の目的地に行きます。空港は、いろんな人がいて中国だという実感がすごくわきました。次の飛行機は移動の距離がとても長くて心配だったのですが、一人一人にテレビがついていてゲームもできたのであつという間に時間がすぎて自分でもびっくりしました。だんだん飛行機も楽しいなと思えるようになったかなと思いました。飛行機のうえから見る景色はとてもきれいでよかったです。次はホテルです。ホテルではトイレの場所も聞いて二日目のホームステイの練習もできました。ホテルはとてもきれいでいごこちがよかったです。ここで発見をしました。日本と中国のちがいー！！おふろは中国はシャワーしかないというところ。日本はバスタブがあるけど中国にはないので、中国には温泉もないのかな？と思いました。

二日目です。今日はいよいよホームステイです。食文化のちがいも見つけられたらいいなと思いました。ホテルに迎えに来てくれた時に大きな紙に「中嶋千晴」と書いてくれていたのでびっくりしました。車に

乗りこむと発見！！自動車の運転席が左にあることです。日本とは逆でした。家につくとスリッパをはいて家に入ったのですが、玄関が家の外にあったのでびっくりしました。夜ご飯はからい物があったので、それは残しました。ご飯の後は、公園に行かせてくれました。三次のゆうゆうランドと同じような感じでした。ブランコがとても楽しかったです。帰ると友だちが、たん生日でいっしょにケーキを食べました。マカロンがのっていて、とてもあまかったです。夜は一人でねました。コミュニケーションはスマートフォンなどでやったけど、中国にも友だちができてよかったです。

三日目です。パンダ保護センターに行きました。パンダのしっぽは白かったけど、ぬいぐるみは黒だったので、ぬいぐるみがまちがっていることが分かりました。パンダは見た目はかわいいけど、きょうぼうだから気をつけたほうがいいということも分かりました。とても近くまでパンダが来てくれてかわいいなと思いました。日本ではこんな体験ができないと思うので、とてもよかったなと思いました。

四日目はディズニーランドです。外で待ったとき、とても暑かったので大へんでした。だけどいろんな所に回れたので、よかったし、楽しかったです。城をまわったりキャラクターを見たりしました。わたしが一番心に残っているのは、ロアリング・ラピッドという乗り物です。おちたり回ったりしながらとても楽しかったです。

五日目は、リニアモーターカーに乗り

ました。時速 300 キロで進んでいました。
新幹線みたいな感じでした。430 キロも
体験したかったです。

わたしが参加して、勉強になったこと
は、違う国の人とも仲よくすることで、自
分の世界はぐっと広がることが分かりまし
た。本当にわたしはいい経験をしたと思っ
ます。とても楽しかったです。いんそつし
てくれた先生！ホームステイの家族たち！
本当にありがとうございました。

■楽しみにしていた中国へー

八次小学校 6年 池田 心

夏休みで一番、楽しみにしていた中国の旅行が幕を開けました。中国へ行く日の前日はとてもドキドキ、ワクワクしていて、なかなかねむりにつけませんでした。

私は、飛行機に乗ったことがないけど、みんなは乗ったことがあるのでとても不安でした。なので友達の手をずっとにぎっていました。いざ、飛行機が飛ぶしゅんかん、とてもきんちょうがはりました。その時、ふわっと体がうく感じがして、少したったら体をおすような感じがしました。そのしゅんかんがとても苦しかったです。それから、おちついて外を見ると今まで経験したことのない雲の上にいることが味わえました。雲の上から見る景色はとてもきれいでした。

中国の旅の中でも、一番きんちょうしたのは、ホームステイでした。ホームステイの家族の人がホテルまで迎えにきてくれていました。その家族の人から、たくさんプレゼントをもらいました。プレゼントを受け取ったら、家族の人に案内されていっしょに行動する林さんと車に乗りました。車の中で三人で質問し合ったりしていたら、あっという間に家に着いていました。その家は、十七階建てで十四階でした。お家はとてもきれいで整理整頓がされていました。その女の子は、ピアノをひいてくれました。とてもきれいでした。ピアノの上を見ると金賞のトロフィーがあってとてもびっくりしました。お母さんが夕ご飯を作っている間にその女の子と林さんと私でブロックをして遊んだり、プレゼントをあ

げたりなどしました。夕ご飯は、きのこやスープなどがあり、おいしかったです。その後も、おたがいダンスをみせあったりしました。

五日間、中国の旅が終わって思うことはたくさんあるけど、その中でも日本とはちがうところ、同じところが分かりました。

まず、ちがうところです。バスの中から見たら信号にカウントダウンがありました。日本では車が止まったら歩行者が歩くけど、中国は信号にカウントダウンがあってゼロになると歩行者が歩き出します。あと、車のナンバーが青いのが多いです。日本では、白いナンバーが多いけれど中国では青いナンバーが多かったので、落ち着かなかったです。それに日本では、運転席が右側だけど、中国は左側にありました。運転のしやすさにちがいはあるのかなと思いました。

次に、日本と中国で同じところです。私はアメリカなどはくつをぬがずに部屋に入るから中国もくつをぬがずに部屋にはいるのかと思っていたら、くつをぬいでスリッパをはいたので、「日本と同じなんだー。」と思いました。

このような日本と同じ文化、ちがう文化が分かりました。私は、「子ども友好訪中団」を通してたくさんの友達もできて、中国の文化も分かりました。

■中国へ行ったよ

八次小学校 6年 野田 七緒

私は、大人三人、子ども十人、合わせて十三人で中国に行きました。

前日には、すごく心がワクワクしていました。なぜなら、私は飛行機に乗るのが初めてだからです。

8月2日ついに中国に行く日が来ました。市役所に集まり、1時間くらいかけて広島空港に行きました。空港内に入って気づいたことは、荷物の警備がすごく厳重だということです。なので、手持ちのカバンの中に入れておかないとセンサーが反応してスーツケースを開けさせられます。飛行機は私が下から見るものの何十倍もありました。飛行機に乗って広島から上海へ行きました。飛行機は、雲の上を飛んでいて、いろいろな形の雲を見ることができました。中国の空港で気づいたことは、中国の滑走路は六本に対して、広島は一本ということです。飛行場の大きさも広島の何十倍もありました。広いので、バスで移動しました。

飛行機には、もう一回乗りました。その飛行機で私と林さんは、中国の人と隣になりました。色々な言葉が書いてある本を見せながら話をしました。そして、その人が「シュウさん」ということが分かりました。シュウさんはとてもやさしかったです。なぜなら言ってくれたことが私たちに伝わらなかつたら、本でその言葉をさがして分かりやすく話してくれたからです。仕事を聞いたら、飛行機のパイロットさんということが分かりました。どうしてパイロットさんが乗っているかという、上海成都に飛

行機があるからだそうです。シュウさんは上海から大阪へ行って、私たちの行った飛行場までが仕事だそうです。私と林さんはシュウさんの住所まで教えてもらえました。中国の人はこわい人ばかりだと思っていたけど、やさしい人もいることが分かりました。

上海から雅安に行きました。なぜ雅安に行ったかという、雅安とは友達だからだそうです。

少し坂をあがったところにホテルがありました。見た目は少し昔っぽいけど、中はすごくごうかでした。部屋は二人ずつで、子ども二人ではすごくごうかでした（広かった）。そこで、日本とちがう所を見つけました。ドアをあけるためには日本はカギを使いますが、中国ではカードを使っていました。

8月3日は、雅安の人たちとあいさつをしました。そこで生徒代表の男の子が話してくれました。すごく大きな声ではっきりと話せていたので、「すごく練習したんだな」ということが分かりました。英語学校では、「机とイスがいっしょ」になっていました。日本は、机とイスがはなれているから少しかわっているなと思いました。英語は、動作で「これはこれ」と決まっていて、先生がその動きをすると発表するというやり方（勉強）でした。

ご飯を食べてホテルにもどるとホームステイの子が待っていてくれました。車に乗って家に行きました。そこで気づいたことは、信号が赤なのに矢印の指している方

向には曲がってもいいようでした。日本では、その矢印は消えてしまうけれど、中国では消えませんでした。そして家は、くつであがりました。ホームステイの子はツオラちゃんという名前でした。言葉は通じなかったけれど、二人だけの遊びをいくつか作ることができました。そこで「言葉は通じなくても心を通じさせること」はできることが分かりました。ご飯は、スープと鳥の足の入ったためもの（お肉）とエビでした。私はからいものは無理なので、からくてほとんどが食べてみても一回しか食べることができませんでした。ちなみに、鳥の足の入ったためものはすごくからかったです。ペットボトルの水を1本飲んでしまいました（一口）。ホームステイのおふろはシャワーだけでした。（中国はシャワーだけ）。ここで気づいたことは、おふろとトイレと洗面所が同じ所に1つになっていました。ホームステイのトイレは水を流すとき、せんをあけて流すしくみになっていました。

8月4日朝ご飯は、お米をどろどろにしてぺちゃぺちゃのお団子をつくっておいしくありませんでした。

その後ツオラちゃん家族が少し町を案内してくれました。例えば、すぐそばを流れている川は、雅安の母の川ということなどです。町を走っていて気づいたことは、ナンバープレートが青色だということと、運転席は左側ということと、カウントダウンの信号があるということです。

ホテルに行きツオラちゃんとパンダセン

ターに行きました。日本よりも近くでパンダが見られたので、すごくうれしかったです。昼ご飯を食べてツオラちゃんと別れたあと、上海にもどりました。そして空港内のホテルに泊まりました。そこは、空港とは思えないほどきれいで大きかったです。

8月5日ディズニーランドに行きました。そこは、人があふれてしまいそうでした。ディズニーも警備が厳重でした。そして、水遊び的な遊具に乗るために2時間もならびました。暑さは日本と同じぐらいですが人も多いのでさらに暑くなり、暑さ対策を持って来たほうがいいなと思いました。

8月6日によ園で買い物をするときに思ったことは、店が細かく出ている所もあれば、大きくまとめて出ているところもありました。中国で一番高い建物は、すごくきれいでとてつもなく大きかったです。

中国と日本とはあまり離れていないけれど、ふんいきとルールそして、自分が思ったよりも良い所だということが分かりました。すごく良い経験ができたと思います。最高の夏休みでした。

■中国訪問を通して感じたこと

八次小学校 6年 松島 彩乃

「よし決めた。中国訪問団に参加しよう。」三次市と中国の友好関係で子ども訪問団をば集していたチラシは見ていたけれど、恥ずかしがり屋の私が、家族と離れて一人で外国に行くなんて、自分でも考えられませんでした。だけど、「自分を変えよう。」「コミュニケーションをとれるようになろう。」と勇気を出して、参加することに決めたのです。

出発まで中国語の勉強をしました。本を読んだり、中国語での自己紹介を覚えました。中国語には少しだけ自信が出てきました。これで、中国の方ともお話ができると思いました。だけど、現実はそう甘くはありませんでした。

出発の日、飛行機に初めて乗った私は、空を飛ぶのが怖くて、友達と手をつないでいました。飛行機は助走をつけるために車輪でとても速く走ってから離陸しました。上空に飛び立つと、窓の外は雲の中を通過して、とても白く美しかったです。でも、「ふわっ」となる感じがして、引力を感じ、ちょっと落ち着きませんでした。初体験の飛行機は友達のおかげで、なんとか乗り越えられました。上海から成都に飛行機を乗り換えて、いよいよ中国に上陸しました。

初日はホテルに直行し、夕食でした。ターナテーブルを初めて見て、便利だなと思いました。だけど、みんなが取ろうとしているかどうか見ないといけないから、そこは難しいと思いました。雨城区は雨が降っていて、涼しく過ごしやすかったです。

二日目は、雅安市の市役所に行き、日中

友好のごあいさつをしました。そして、佳音英語学校を訪問しました。練習していったダンスを、ひろうしました。とてつもなく緊張しました。英語学校のみなさんは、優しく接してくれました。中国語と英語をみんな覚えていて感動しました。私は中国語であいさつし、英語でもあいさつしました。言葉ってすごく大切だなと実感しました。話が通じるととてもうれしくなります。だけど、言葉が通じないと自信が無くなりもどかしい気持ちになりました。

いよいよ、ホームステイです。お母さんと小学校五年生の女の子「芯瑞ちゃん」が迎えに来てくれました。この時が初めての対面でした。「友達になれるといいな。友達になれるように、自分からしっかりお話ししてコミュニケーションを取ろう。」と思いました。芯瑞ちゃんの家は、マンションの十階で驚きました。芯瑞ちゃんと同級生の男の子も来てくれ、ご飯まで、お話ししました。だけど、芯瑞ちゃんが話しかけてくれたことが、私には内容がわからず芯瑞ちゃんが持っていたスマートフォンのアプリを使って会話することに・・・スマートフォンは便利だけど、手振りや身振り笑顔で通じるところもあるはずです。スマートフォンでのコミュニケーションは「本物」とは言えない？と思いました。

言葉は「シャワーを借りてもよいですか?」「もうお腹いっぱいです」など、自分の気持ちを伝えるのにとっても大切なものです。ただそれは、ほん訳機でもできると思います。

私がお話ししていて一番楽しかったことは、水墨画を教えてもらったとき待ち時間に、芯瑞ちゃんにスマートフォンなしで、天気のこととか、中国語の面白い発音などを、教えてもらったことです。楽しい気持ちはほん訳機には出てきません。伝えようと思って、いろいろ悩みながら身振り手振りで説明したり、お互いにわかろうと努力することが本当のコミュニケーションなのかなと、そのとき私は思いました。

ホームステイ先のお母さん、お父さんにはとてもよくしてもらって、たくさん楽しい思い出を作ることができました。トランクに入りきれないほどの大きな「パンダのぬいぐるみ」をお土産にもらいました。雅安市で有名な「蔵茶」もいただきました。一緒にパンダ保護センターにも行きました。たくさんパンダがかわいくて芯瑞ちゃんとも、桜愛ちゃんともはしゃぎました。パンダのしっぽは「黒」だと思っていたけど、じっくり観察すると「白」だったことも発見しました。三次市と雅安市の友好十周年記念碑がパンダ保護センターにあり、こんなに三次市と雅安市が交流していることにも驚きました。

ホームステイ先の芯瑞ちゃんやお母さんとお別れするときが来ました。すごくさみしい気持ちで一ぱいでした。お別れするときの気持ちは、みんな一緒だと思いました。お母さんは「また来て下さいね。」とってくださいました。私も心から「謝謝。」と言いました。そして、芯瑞ちゃんと握手してさよならをしました。中国訪問で一番

心に残ったホームステイとなりました。

文化の違いもたくさん感じました。からいものが多かったり、餃子がもちもちだったり、お風呂がシャワーだけだったり、文字が漢字ばかりだったり、くつのまま家に上がったり、横断歩道が茶色と白だったり、リニアモーターカーの速さに驚いたり、ビルの高さにびっくりしたり・・・日本や三次との違いも中国に行って勉強になりました。

友達の存在も、中国訪問をがんばれた大きな力でした。飛行機に乗ったときも、ホテルで過ごしたときも、待ち時間の時も、ディズニーランドに行ったときも、大笑いしたり、疲れを吹き飛ばす出来事がたくさんありました。十人の子ども訪問団のみんながいてくれたから、楽しい思い出ができました。

「自分を変えよう。」と決意した中国訪問。交流するには中国語の勉強をしたり、中国のことを理解したりと、もっともっと努力が必要だと思いました。だけど、少しコミュニケーションがとれ、恥ずかしがり屋が治ったと思います。お世話になった三次市日中友好協会の皆さんや、中国訪問に参加させてくれた家族に感謝して、スマートフォンに頼らない本物のコミュニケーションをこれからいろいろなところで頑張りたいと思います。

■中国へ行ってきたぞー

八次小学校 6年 林 青空
わくわく、どきどきしながら、中国へ行く八月二日がきました。

バスに乗って、空港に行き、飛行機に乗りました。席にすわると、となりの人は、中国の人でした。私は、心の中で、声をかけようかなと思いなやんだすえ、話しかけてみることにしました。

「ニーハオ」としゃべりかけたら、
「ニーハオ」とかえしてくれました。

初め、「指さしの本」で、質問していたらその人はパイロットでした。色々話すうちに、英語や手話で話していました。

それで、私は、言葉が通じなくても、しゃべりたいという気持ちがあったら、何かしら通じると分かりました。

色々話していたら上海浦東国際空港に到着していました。

二日目、雅安の夕方になりました。ホテルに、ホームステイの家族が迎えに来てくれました。そして、車に乗って家に向かう間に有名な橋など、教えてくれました。家は十七階建てで十四階でした。

周りの建物も高く、町もにぎわって、活気にあふれていました。夜ご飯ができるまで、翻訳機能を使い、女の子といっしょにホームステイに来た池田さんと三人で、フルーツを食べたり、おみやげをあげたり、質問をしあったりしてしゃべっていました。夜ご飯は、サラミみたいなのとキノコとか、スープなどを白ご飯といっしょに食べました。お風呂は、シャワーでトイレといっしょになっていて、日本と全然違いました。

ちょっとした食事やお風呂でもゆぶねがなかったり、食事は白ご飯はいっしょでも、おかずなどはちがったりして、生活が似ているけど、細々ちがうところがありました。

他にもちがったり同じところがあります。まず、漢字しかないということです。漢字しかないから、読みが違うところがあったりするけど、同じ読み方もあり、例えば、「出口・入口」のように同じ読みのもがあり、文化が中国から日本へ伝わってきたと分かりました。

車もちがいがあり、ナンバープレートの色が青でした。形が横に長かったです。あと、交通ルールも少しちがって、赤信号でも曲がっていいし、歩行者は左側通行というふうにちがったから、それぞれの国で交通ルールが違っていると知りました。

同じ所は玄関でくつをぬぐ所です。アメリカなどは土足だから、中国も土足かと思っていましたがくつをぬいだので、そこは同じなんだなと思いました。

中国に行って、同じ所やちがう所など文化が伝わってきたと分かる所がいろいろありました。

友だちができたので、また会いたいと思いました。

■第9次子ども友好訪中団に参加して

三次小学校 4年 小山 輝才

ぼくは、三次市日中友好協会 第9次子ども友好訪中団の団員となり、八月二日から四泊五日で中国の四川省雅安市雨城区行きました。訪中団は女子8名、男子2名でした。一緒に行ってくれた大人は3名でした。一日目は、三次を朝6時出発でほとんどが飛行機の中でした。移動に13時間もかかり、とてもつかれました。初めてホテルに一人で泊まりました。

二日目は、政府表敬訪問や英語学校訪問をしました。英語学校には、多くの小学生がいて、一生にゲームなどをして、楽しい時間を過ごしました。夕方からホームステイの家に行きました。張くんという同級生の家へ一人で行きました。ぼくは、中国語が話せないし、人の家に一人で泊まったことがないので、少し不安でした。でも、ほんやくアプリをスマートフォンに入れて、用意してくれていたのので、いろんなことを話せて、張くんとすぐに仲良くなることができました。張くんは、お父さんとお母さんの三人家族でした。みんな、ぼくを大かんげいしてくれました。

まず、お母さんが夕食を作ってくれました。メニューはギョーザと肉料理と、雅魚のスープ（雅安で有名な魚のスープです。）などでした。ぼくは、ギョーザがおいしくて、たくさん食べていると、お母さんがどどんお皿にのせてくれたので、おなかかすごくいっぱいになりました。

夕食後、日本からおみやげに持っていったけん玉で張くんと遊びました。張くんは、最初はへただったけれど、やりながら教え

てあげると、次の日にはぼくよりもうまくなっていました。一緒におり紙やぬり絵もしました。あっという間に時間はすぎていきました。

三日目は、張くんも一緒にパンダ保護センターにパンダを見に行きました。他の団員のホームステイをした中国の友だちも一緒でした。ぼくは、中国でパンダを見るのは二回目ですが、やっぱり大きいなと思いました。昼ごはんを一緒に食べてお別れの時がきました。張くんのお父さんとお母さんも会いに来てくれました。みんなとあく手をして、お別れをしました。ぼくは少しさみしく思いました。そして、また会いに来たいなと思いました。夜、飛行機で上海までもどりました。

四日目は、上海ディズニーランドに行きました。ぼくは、東京ディズニーランドに1回しか行ったことがないので、とても楽しみにしていました。人が多くてたくさんのアトラクションに乗れなかったけれども、ミッキーマウスと一緒に写真がとれたのでうれしかったです。

五日目は、リニアモーターカーに乗りました。とても速くてびっくりしました。上海ヒルズ百階展望台や豫園へ行きました。

ぼくは、今回中国へ行って気付いたことは、車が右側通行、お風呂の浴そうがないこと、日本と同じですごく都会といなかがあること、言葉が通じなくてもみんな親切だということです。これからもいろんな国へ行ってたくさんの発見をして、友だちをたくさん作ってみたいなと思います。

■中国に行きました

八次小学校 2年 中嶋 俊太

八月二日 木曜日

ぼくは、中国に行きました。そして中国のホテルにとまりました。そして、いっぱい食べたあとはあさごはんを食べました。あさごはんはおいしかったです。つぎにホームステイをしました。そしてぼくのホームステイのいえは、すごくごうかでした。そして、いえのそとにベランダがあってそこでバーベキューをしました。しょくざいはほぼ日本とおなじですが、大きな魚をいっぱいきまるとだしたことが、とてもびっくりしました。それでひとくちたべてみておいしかったけどほねが入っていたべにくかったです。

さいごにみんなでホームステイのともだちがたんじょうびだったから、みんなでケーキを食べました。ぼくは、がんばって中国ごで、おたんじょうびおめでとうってあげました。そしてありがとうってくれました。ケーキがとてもおいしかったです。日本のケーキとおなじあじでした。へやにもどってウーさんが中国のカイパンでえんじしてくれました。いみがわからなかった。でもおもしろかったです。さいごは、わたしが中国ごでじこしょうかいをしました。みんなは、はくしゅしてくれました。それからねるときは、おなじベッドでねました。ベッドはすごく大きかったです。ホームステイのともだちのウーさんといっしょにちょっとあそんでからねました。つぎのあさ、ホームステイのおばあさんがスープぎょうざをつくってくれました。そこで食べました。そしたらホームス

テイのおかあさんとおとうさんがおりてきてくるまにのってホテルにもどりました。それでみんながあつまっておとうさん、おかあさんありがとうございました、といました。そのあとウーさんといっしょにパンダえんにいきました。はじめてちかくでパンダを見れたのでうれしかったです。パンダはたけざさをたべていました。ちかくにきたりとうしろにいたりしていました。ちかくで見てみたらすごくかわいかったです。色は黒と白のいつもの色でしたが、ちょっときいろぽかったです。ちかくでみると白いところがちょっとピンクに見えて、とおくで見るとちょっときいろぽかったです。

また、こんかいは中国でお茶をべんきょうしたり、中国のともだちといっしょにえをかいたり、ディズニーランドに行ったりあたらしいホテルにいっしょにとまったりじぶんのスーツケースをせいりしたりしてバスにのり、ひこうきにのり、さいごにバスにのり、やっと日本にかえってきました。

日本と中国がちがうところは、中国人のほうが多いです。中国に行って、じぶんが楽しいなという気持ちができるので、また中国に行くきかいがあったら、行きたいなと思いました。

もっと中国のことをいろいろ知りたいと思っています。こんかいつれて行ってくれた先生たちに感謝します。ありがとうございました。